

趣旨説明

平和科学研究センターの川野でございます。丸山先生、ご挨拶を頂きまして有難うございました。

私は今年の4月1日に、元国連大使の西田恒夫先生の後を継ぎ、平和科学研究センターのセンター長に就任いたしました。どうぞよろしく願いいたします。なお、西田先生には引き続き名誉センター長として、大所高所よりご指導頂いております。

ご承知のように、平和科学研究センターは、教授1名、准教授1名、助教1名という小さな組織です。それ故に、平和研究のあらゆる分野に目配せするのは難しいと考えています。そういうこともあり、特に、原爆・被ばくに関わる「ヒロシマ型の研究」と平和構築や難民の問題等々を対象とする「グローバル平和研究」という、二つの研究領域に特に傾注して研究を進めてまいりたいと考えております。

この8月2日には「原爆体験・戦争記憶の継承」をテーマに第1回目のシンポジウムを開催いたしました。今回は今年度第2回目ということで、二つ目の研究領域「グローバル平和研究」を意識し、「復興と平和構築」というテーマで国際シンポジウムを開催いたします。

阿部先生には、大変お忙しい中、UCLAよりお越し頂き基調講演をして頂きます。東日本の復興支援のご経験を通して、その現状と課題についてお話しいただきます。私も講義で東日本大震災の話をしていただきますが、遠い昔の話のように学生は捉えています。しかし、実際には、現在も復興には程遠く、依然多くの方々が避難生活を強いられています。復興の過程において、いかにコミュニティが重要であるか、そのコミュニティにはいかなる可能性があるのか、そういったお話をお聞きできると大変楽しみしております。

基調講演に続き、国連大使、そしてカナダ大使、外務審議官等々、あらゆる頭職をご経験で、外交官として第一線でご活躍された西田先生にご登壇いただきます。「平和」そして「復興」をキーワードに、幅広く今日の国際社会を論じて頂きます。

続きまして、高麗大学よりお迎えした朴鴻圭先生より、現在、皆様の関心の非常に高い北朝鮮問題を軸に、東アジアの平和はいかなるものか、どのような可能性があるのかについてお話しいただきます。

さらに、ケイト・フィアロン先生には、アイルランドと英国との和平交渉を中心に、平和構築の可能性についてお話しいただきます。

各先生方のご講演の後、片柳真理平和科学研究センター副センター長にモデレーターをお務め頂き、パネルディスカッションを行いたいと思います。片柳先生には、7月10日に平和科学研究センターの副センター長にご就任頂きました。片柳先生には、「グローバル平和研究」の領域を牽引していただきたいと思い、ご無理を承知で、副センター長に就任いただきました。

それでは早速、阿部先生の基調講演に移りたいと思います。長丁場ではございますが、最後のパネルディスカッションまで、ぜひ皆さま方には積極的に議論にご参加頂き、大いに議論を深めていただきたいと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

広島大学 平和科学研究センター長
川野 徳幸